

経営比較分析表（令和5年度決算）

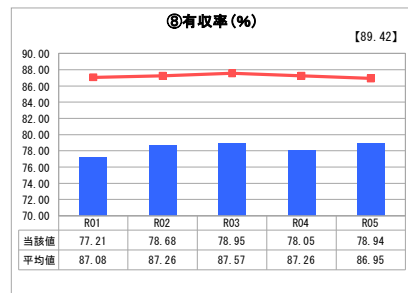
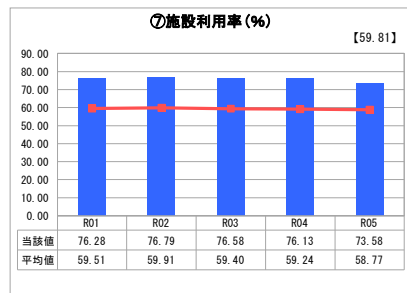
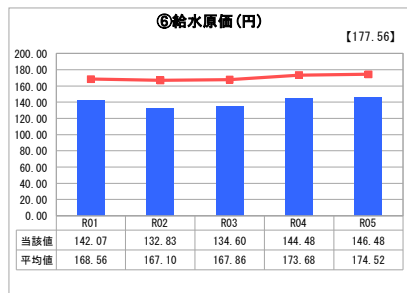
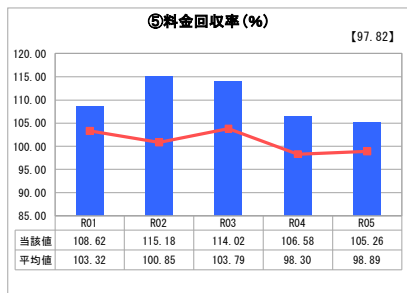
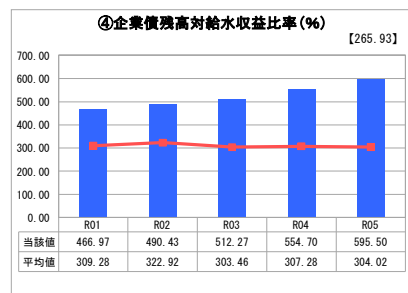
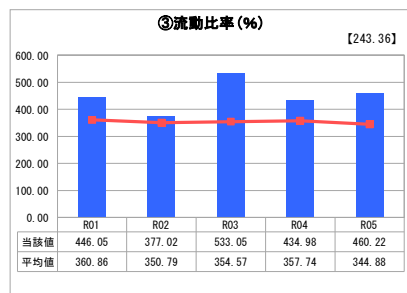
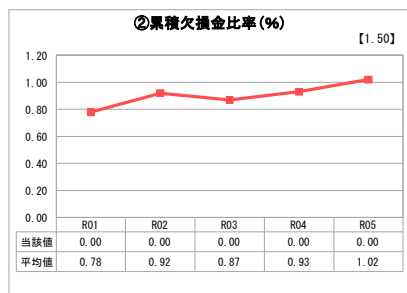
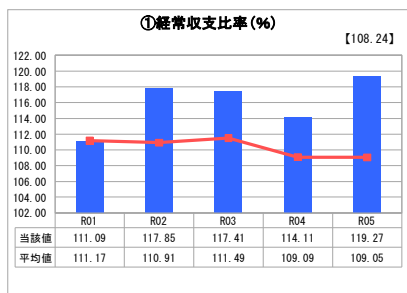
栃木県 鹿沼市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	59.42	91.87	2,475	

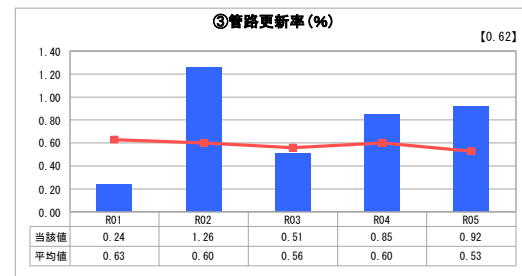
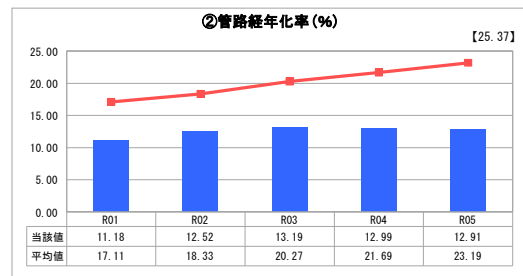
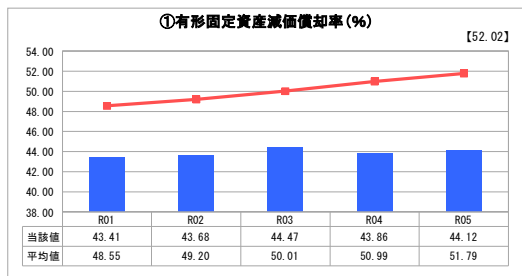
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
93,807	490.64	191.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
85,649	147.98	578.79

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性を示す経常収支比率は119.27%となり、健全経営の水準とされる100%を引き続き上回っている。
 しかし、補償金などの臨時的収入があったことによるもので、前年度比5.16ポイントの増は一時的なものである。
 今後、給水人口の減少に伴う給水収益（水道料金収入）の減収や、物価高騰の影響による維持管理費の増加により、経常収支比率は悪化するものと考えられる。
 また、料金水準の妥当性を示す料金回収率（供給単価/給水原価）は、前年度と比較し1.32ポイント減の105.26%で、事業に必要な費用を給水収益で賄える状況とされる100%は上回っている。
 しかし、物価高騰の影響を受け給水原価は146.48円/㎡と上昇しており、年々経営は厳しくなっている。
 施設の稼働が収益につながっているかを示す有収率は、漏水箇所の早期特定や迅速な修繕対応により、前年度比0.89ポイント増の78.94%となった。

2. 老朽化の状況について

固定資産の老朽化度合いを示す有形固定資産減価償却率は、前年度比0.26ポイント増の44.12%、法定耐用年数を経過した管路延長を示す管路経年化率は12.91%となり、前年度とほぼ同じ水準を維持している。
 しかし、法定耐用年数（40年）を超えた管路更新には莫大な費用がかかり、一斉に更新が難しいことから管路経年化率は上昇するものみられる。

全体総括

経営の健全化は現在のところ保たれているが、今後、人口減少や節水機器の普及などによる水道の使用量の減少、電気料等の維持管理費の増加が見込まれるため、経費節減に努めつつ、適切な料金水準を検討する必要がある。
 また、老朽化する管路が増加するため、経営戦略（財政収支計画）の見直しを行い、持続可能な事業運営を進める。